

2023年12月31日

◎大晦日、本年最後の日、小雨が降っているのかいないのかというような朝である。6時に目覚め、まずは歯磨き、布団をたたみ、服を着替えて階下に降りた。まずは風呂場で換気の点検、洗濯物を運び洗濯機に入れた。洗濯機の事だけど、なんだか汚れが取れない、黒い衣服に白い汚れが残っている、洗濯機が潰れたのかと危ぶみながらも永らく経ったが、「待てよ 洗濯機の取扱説明書 読んでみよう」と探してみた。古い洗濯機で説明者はどこを探しても見つからない、家人が何処かにしまってそのままだろうが、そういう時は便利なツール、パソコン検索という手段がある。ナショナル電気：洗濯機：製造ナンバー、を入れると PDF 書類が出てきた。この洗濯機はそれなりにいいものらしく、全自動洗濯機とうたっている。「え 洗剤は いちいち いれなくてもいい」まずは洗剤を入れるふたを開けドボドボと入れてみた。今まで通りにスイッチを押ししばらく音を聞いているとスムーズに動いている。洗濯層もなんだかきれい、洗濯物もそれなりに洗濯が終わっている、「これでいいのかな」と首をひねりつつもこれでしばらくやってみようと思っている。

◎家族用のパン焼きをセットをした。オレ用のパンは強力粉に薄力粉と塩だけのフランスパン風で、家族用は強力粉に全粒粉、塩、スキムミルク、バター、砂糖が入り甘くてうまそう柔らかい食パンである。今日はその家族用をセットし、自分の食べるパンをトースターに入れ、ヤカンでお茶用の湯を沸かした。1時間もすれば洗濯が終わり、「曇っているが 降らないかな」と外に洗濯ものを干した。2時間ほどして2階に上がり、「さ 絵を描くべ」とごそごそ始めた。9時ごろに窓の外を見ると道路が濡れている、「あれれ くそお 降りやがったか」と慌て階下に行き、丁寧に洗濯ばさみをはさんで干してある洗濯物を籠に回収して、2階に持ちあがりまたまた丁寧に干した。アトリエに干すと明日の朝には乾いている。

◎50号のキャンバスを出して色を入れた。セルリアンブルー：cerulean blue にバイオレット：permant violet を混ぜ、しゃぶしゃぶのお汁にしてキャンバスの上にたっぷり垂らした。乾いてみると、「むむ 混ぜない方がよかった 絵の具の発色が死んでいる それぞれの色が お互いを否定し合っている」とまずは仏頂面で、「ならあ これから この濁りを利用して 描いていきゃあ いいじゃねえか」と開き直り。「明日は 復活させるぞ それと もう一枚 描くぞ」

◎3時半ごろから河原に出かけた。普段の知った顔が2.3人、お初にお目にかかる若者中年が4.5人河原を走っていた。29日の山、1000M 近くのススキは綿毛もなく箒の先のようなだったが、まだこのあたりは温暖な気候のせいか最後の綿毛が風に揺れている。鳥にとっちゃ、「大晦日なんて 知らねえよ」いつものように飛び回り鳴いている。川の水はユラリ流れている。

◎アトリエを掃除しよう、断捨離しよう、片づけなくては、掛け声ばかりでまったく動けない。展覧会が終わったら断行だと固く思っていたが、オレの固いはいとも崩れやすい、意志薄弱である。

◎晩飯は家族三人で、そばを食い卵焼きを作り、簡単ピザを焼き、とそれぞれ何を食ったか思い出して書いているが、ワインを飲みながらそれぞれちょっとずつ口に運び、すぐに腹がいっぱいになり、「美味しい 酔った」といい気分である、いかにも飽食である。

◎ 11 時頃に寝たが、枕もとのスマホに着信音がぼろぼろ鳴る。「起きたら これらに返信したら せっかくの眠気が飛んでしまう 明日が眠い」とほっておいた。除夜の鐘も二三回聞いたような気がするが、寝入った。

2024年1月1日

◎「大晦日のことを書いたら 元日のことも書かねば 元日が すねよる」夜にいっぱい飲みながらそう思って苦笑した。元日は、昼過ぎ描き終わったあとに大変なことがあった。「明日は 50号の絵に 絵の具を入れるぞ このままじゃ濁っている この濁りを取るために 爽やか色の絵の具を入れるぞ それと もう一枚50号を描き出すぞ」昨日の約束をたがわず守がごとく、50号のキャンバスを2枚、前にして、まずはブルーの絵具を出し昨日同様しゃぶしゃぶにして太い筆で線を入れた、もう一本入れた、もう一箇所ぐりぐりと擦ってみた。次にグリーンの絵の具を出し先程よりはしゃぶしゃぶ加減をおさえたく柔らかい筆で描いてみた。そんなこんな作業が終わり、次は小さい絵の修繕の部、にっちもさっちもいかないこれらの絵、何度色を入れても答えてくれない、かといって、「やめだ」とは言えない。「どうすればいい 何が気に入らん なんとか答えてくれよ」ここ数日情けない状態でありんす。「黒を 黒い方の黒を 入れてみるか」朝からその思案があった、50号が終わって黒の絵具を溶いた、ゆっくりじっくり混ぜこれまたたく柔らかい筆で、ポロリそろり色を入れてみた。「むむむ」これは肯定でも否定でもないオレのつぶやき、乾いてから次の色を考えてみよう、成功も失敗もそれからだ、という心境で筆を下ろし終わった。は一は一言いながら、このは一は一は勢いよく筆を扱う、右に左に動く、前にうしろに動く、筆を持つ筆を下げる筆を上げる、こういう一連の作業がけっこう体力を使う、まさには一は一である。よしこれでいだろう明日まで待とう、まっ黒の入った椀と太い筆をもって、水場で筆をごしごし洗っていた。ごしごしと何度洗っても黒い色がきれいに取れない、もう一回、もう一回と繰り返し体をゆすりごしごししていると、床もごしごししているような感覚が伝わってきた、「なにを 冗談を オレの身体まで 揺れとるじゃないか」「えええ ちょいまって これ 地震だ」「えええ まだ続く えりゃあ ながい」ぶら下がった電灯が揺れている、紐が左右に振られている、「こらあ でっかい 地震だが遠いところ かな」慌ててラジオを点けると女性アナウンサーが、「津波です 逃げろ 何も考えずに 高いところへ 逃げろ 命のためです」と絶叫している、石川県の方らしい。

◎大晦日の夜、スマホがピコピコ鳴っていたがそのまま寝てしまい朝は7時までぐっすり眠むれた。歯を磨き布団をたたみ服を着替えた。さほど寒くないねと思いつつ階下に降りた。日課をひとつずつこなし、「今日は雑煮の日 雑煮は9時か10時 まだ二三時間 飯にはありつけない パンを一枚だけ喰っておこう」「水気を飲みすぎると 頻尿 小便 コップ一杯にしておこう」ミルクティーを飲みトーストパンに野菜を挟んで喰った、ものたりない、もっと欲しいが我慢である。洗濯を干し終わって昨夜来のスマホを見た。山仲間のラインがたくさん入っている、おめでとうやら今年もよろしくやら、画像も二つ三つ、富士山の写真まである、賑やかである。オレは、「おめでとう 吉野の方に 樹氷を見に 行きたい 高見山・明神平・三嶺山 そんな山に 近々行きましょう」「比良も行きたい 西山古道も行きたい」オレの、山に行きたい気持ちは汲めども尽きない、ほんと山に行きたいねえ。

◎10時過ぎに、「雑煮ができた」と連絡をもらい階下で喰った。元来は我が家の雑煮は鶏がらスープ仕立てだった。年末に母親が背骨付き鳥を買って来てそれを煮出し脂が浮いた鳥のスープの雑煮だった、これは美味かった、青年になりラーメンを食べたときにこの雑煮を思い出した。今の子どもたちのようにいろんな食べ物が簡単に手に入らなかった時代、ラーメンや餃子、美味しい魚などを味わったのは二十歳を過ぎてからだった。今のわが家、白みそ仕立て、これはこれで美味しい。愛媛のかまぼこ、青野菜、ゴボウやニンジンが入っている。

◎夜は、「おせちを片付けてしまおう」と白ワインで喰いだした。高級おせちを買っていただき、「小ぶりながら食べやすい味」美味いうまいと家族三人で平らげた。東京からは動画が来た、ホテルのレストラン、肉にブランドーの炎、これまた美味そうである。カニ・フグ・馬刺し・おせち、最近、オレもグルメだ。

- ◎9時に歩き出した。7時に家を出て車で高見山の登山口、「たかすみ温泉」の駐車場に止め、靴を、スパッツをと準備をして歩き出した。正月が明け、「霧氷が見たい」と思っていた。オレのテリトリーは三つしかない、高見山、三嶺山、明神平である。一番のお気に入りには明神だが、今回は高見を選んだ。
- ◎新しき我が車、とはいえ誤解のないように申しますと、11月に手に入れた12年前の箱型の中古車でやんす。それに乗り、近所の相澤さんを乗せ近畿道から南阪奈道へと進み、2時間でたかすみ温泉に着いた。この車はもうすでに2か月近くなるがあまり遠出がなく近所のチョイノリばかりだったので、たった100キロとはいえ初の高速道路も入れやや走ってもらった。なのでこの車のことはまだ詳しくない、まずガソリンの減り加減は前のアコードに比べ燃費が多少いいような気がする。ただ加速が弱い、登りの坂道ではアクセルを踏んでも加速はしない、そのてんアコードは坂道でも100キロを出していても、踏んだらさらに早くなっていた。「まじジイにとってはハイスピードに縁のないほうがいいのでは」と思っている。
- ◎オレはいつものように、東吉野村の方から、166号線、高見トンネルを目指す道をナビ君が案内してくれているものばかりと思っていた。「ここを左へ」「え まっすぐじゃないの」「しかたないねえ 言うことを聞くよ」と左へ曲がった。なんと御杖村と言う標識が出てくる、「大丈夫かな」しばらく行くと、「次を右折」という。なんと細い山道、雪があれば、凍っていれば通れない道だ、幸いなことに、「たかすみ温泉」の標識が出た。ナビ君、反対方向から入るように言ってくれているようであるが、次回からはこの道は通りたくないのを付けよう。地図を検索すると、166号線に行くよりナビ君の方が距離的には近いようだ。ついでに、「南阪奈道からまっすぐ檜原と西名阪の柏原を降りて大和バイパスに入り檜原に行くのと」で調べてみると、距離は西名阪が近いが、南阪奈の方が時間は早く着く。「金をケチるか 時は金なりを選ぶか」だね。
- ◎豆知識：樹氷やら霧氷やらどちらでもいいやと思っていたが、ネット氏いわく、「霧氷にしてください 樹氷も霧氷の一種です」ということでこれからはなるべく霧氷と言うようにします。
- ◎一本目を歩いているが、まったく雪がない。去年は冬に二度ここを登っている。一度目でも一本目からちらほら雪があった。二度目の時は166号線、吉野方面に入ってからすぐのところから道路に雪が積もり、チェーンをつけて走った。避難小屋あたりからアイゼンを着けピッケルを突き刺して登った。雪は20センチ30センチと積もっていたが多くの人が登っていたのでラッセルの跡、苦も無く歩けたが、吹雪がすごく防寒具のフードを被りエッコラショとコラショと登った思い出がある。
- ◎樹林帯を歩いている時にも、「えりゃあ 風が吹いてるねえ 音がするねえ」と思っていた。昨日の天気予報では夕方になるとややこしくなるが午前や日中は晴れマークが出ていたように、空を見上げると晴れている、樹林帯の中、枝や葉は風の音がしてざわめいているが、地面には陽が射しまだら模様が浮かび上がっている。ところが樹林帯を過ぎ国道からの登山道の分岐を過ぎたあたりから風が身体に当たりだした。
- ◎コースタイムで2時間半の山、ジジババながらも順調に登っている、9時に出発して12時頃にはたっぺんに着きそうなペースで登っている、もうすぐだというあたりの尾根道は風がきつい、吹っ飛ばされるというほどではないが一步一步足を踏みしめて登っている。雪はまったくない登山道も左右の斜面もない、「あ ちょっと雪がある」「あ 霧氷があるよ」わずかながらに雪が残っている、何本かに樹の枝に白いものがひっついていてカメラを取り出して写すには風がきつい、手袋をはずすと冷たすぎる、横目で見ながら進んで行くと小屋が見えた、20人近い人が狭い山頂にいる、避難小屋の中ではコンロを出して湯を沸かしている人がいた。
- ◎今朝出発して、「あ 忘れた 湯を」昨夜からテルモスを2本用意していた、朝に湯を沸かし入れればいようにしていた、じゅうぶん時間に余裕があったのに、全く忘れてしまっていた。「2本持ってきたからあげるよ」避難小屋ではヌードルの湯を、下山道ではインスタントコーヒーの湯をありがたくいただいた。
- ◎3時頃に駐車場に着いた。避難小屋、横に居た若者グループがビールで乾杯をしていた。その男女が駐車場にいて話をした。「え オレのオヤジと同じ歳」「こんな息子の歳の若者といっしょに登れたら と思っ
てい
るよ またねえ」と別れた。まだ明るいうちに車を走らせ、6時に帰宅した。

三浦祐之著<口語訳：古事記>

◎イザナミを葬った場所は出雲と伯耆（鳥取県中西部）の境“比婆の山”だという。比婆山を検索すると登山のできる山のようなのである。広島県庄原市となっているが、日本海側の出雲や安来から 50 キロほど南のあたりにある。この神話が語られた時代に、大事な人物、大事な神を、中国地方の分水嶺とも思われるところに埋葬したとは不思議なことだなと感じた。ただ、埋葬地が“比婆の山”だと確定しているわけではなさそうである。

◎黄泉の国で、イザナミが、「どう私を見ないでくださいませ」言われたが、待ちきれないイザナキが見たものは、なんとウジ虫が数え切れぬほどに這いまわって・・・、これを見たイザナキはおそろしゅうて、横たわるイザナミに背を向け逃げ出した。逃げてにげて、黄泉の平坂まで逃げおおせた。ここも出雲の国だという。ようよう葦原の中つ国に戻り来たイザナキは筑紫の日向（ひむか）にお出ましになり、禊の払いをなされた。

イザナキはこれからどンドン神を生んでいく。

そして禊の果てに、

左の御目を洗いたもうた時に成り出た神の名はアマテラス：太陽の神：最高神：天皇家の祖先

右の御目を洗いたもうた時に成り出た神の名はツクヨミ：月の神：ほとんどでてこない

御鼻を洗いたもうた時に成り出た神の名はスサノオ：のちに根の堅洲の国の大神となる

◎日本書記では、この三神はイザナギ・イザナミのまぐわい：性交によって生まれるように書かれている。古事記では、イザナギは己ひとりの力によって次々神を生んでいった。

◎古事記は口承文学、口に出して歌うといい、とよく聞く。アマテラスとスサノオのウケヒの場面。

アマテラス 「いかなるわけにて のぼりきたるや」となじり とうた

スサノオ 「わたしには よこしまな ころなどありません ただ ちちうえ いざなきの

おおみかみの おことばがくだり わたしがなくさまを おたずねになるがゆえに ははのくにに

いかんことを ねがって ないているのです」ともうしあげた

すると おおみかみが おおせになるには「そなたは このくにに すむこと ならぬぞ」

というて わたしを かむやらいに やらわれたのです

それゆえに まかり いかんさまを あねうえにもうしあげ おいとまごいを しようとして

まいり のぼりきたのです いささかの ことこころも もっておりません

あまてらす 「しからば そなたの こころが きよくあかきは いかにしることが できよう」

すさのお 「おのおの うけひをして こをうみましょう」とこたえた

ウケヒの様子は、次回。

そうして、それぞれ子を生み終わるとすぐに、アマテラスはスサノオに向かいあうと、「後に生まれた 五柱のおの子は そのものざねが わがものによりてなれる それゆえおのずから わがこなり さきに生まれた 三柱の めの子は ものざねが そなたのものによってなれる ゆえに そのもちぬしの そなたの子なり」

すさのおは 「わがこころは きよくあかし それゆえに わたしは たわやめをうみなすことができたのです わたしは おのずから うけひに かったのです」

三浦祐之著<口語訳：古事記>

そこで あまてらすと すさのおは それぞれ あまのやすのかわ を あいだにはさんで うけひを
 することに なった

あまてらすが まず すさのおの はいておった
 とつかのつるぎを こいとして
 それを みつつに うちおり たまのおとも かるやかに ゆらゆらと
 あまのまないに ふりすすいで それを
 くちのなかに ばりばり かみに かんて
 いぶきのごとくに ふきだした
 さぎりとともに なりてた かみのなは
 たきりびめ またのなは おきつしまひめ
 つぎに いちきしまひめ またのなは さよりびめ
 つぎの たきつひめ
 このみはしらの めのかみが ふきなされた

つづいて うけひにたつた たけはやのすさのおは
 あまてらすが ひだりのみずらに まいてござつた
 やさかの まがたまの いほつもの みすまるのたまを こいとして
 たまのおとも かるやかに ゆらゆらと
 あまのまないに ふりそそいで くちのなかにいれ
 ばりばり かみにかんて いぶきのごとくに
 ふきだした さぎりとともに なりてたかみのなは
 まさかつあかつかはやひあめのおしほみみ
 また みぎの みずらに まいてござつた たまを こいとして
 くちのなかにいれ ばりばり かみにかんて
 いぶきのごとく ふきだした さぎりとともに
 なりてたかみのなは あめのほひ
 また かずらに まいてござつた たまを こいとして くちのなかにいれ
 ばりばり かみにかんて いぶきのごとく
 ふきだした さぎりとともに
 なりてたかみのなは あまつひこね
 また ひだりの てに まいてござつた たまを こいとして
 くちのなかにいれ ばりばり かみにかんて
 いぶきのごとく ふきだした さぎりとともに
 なりてたかみのなは いくつひこね
 また みぎの てに まいてござつた たまを こいとして
 くちのなかにいれ ばりばり かみにかんて いぶきのごとく
 ふきだした さぎりとともに
 なりてたかみのなは くまのくすび
 すさのおの くちからは あわせて いつはしらの おのかみが ふきなされた

- ◎市の健康診断、「誕生月にしなさい」なんて書いてある。オレは毎年11月に受け12月に結果を受け取るようにしている。11月はまだ暖かいということと、12月に入ると何やかやとせわしない、という理由でもあるのです。そうそうおもい出した。車の件：10月23日に前のぼろ車の車検が切れる、「もう2年乗るかな」と思っていたが、「これ もう アカンのでは」と人に言われ慌てだした。焦り慌て胃が痛い、やっと決まり次の車が来たのが、11月18日だった。翌日に展覧会の搬入、箱型ノアに積み込み展覧会にはなんとか間に合った。話しは飛んでしまったが、一週間の展覧会が終わり、健診を受けたのは11月の末、12月の中旬にその結果を聞きに行った。「悪いことは続く」と医者先生、おぬかしになって、検便での数字が880だということ、内視鏡検査が必要だということ、加えて血圧の上が140で高いこと・・・トホホである。
- ◎その話を聞き、「あいたた あちゃ～ いやだねえ～」時間がとられる費用がかかる、いいことなんて何もない、「くそお～」である。思い起こせば大腸内視鏡はこれで4回目、一回目は友人のS君がいる病院で検査と切除と2回した。3回目は近所のクリニック、名前は出さないがおいに下手くそで痛いいたい、しかも、「あんたが痛がるから 検査が十分にできない」とおぬかし、「もうちょい 腕を上げんと 普通じゃないよ」とは口に出して言えなかったが、今回も含め、あとの3回はそんな苦痛は一切なかった。「どこでする」「どこでも近所なら」「そんなじゃ 堀井さん紹介する」歩いて10分ぐらいの医院を紹介してくれた。
- ◎1月の10日ぐらいに、紹介状を持って医院を訪れた。北海道大学を出て京都府立医大で研修をしていたようだ。「したことがあるなら知ってるね」「15日空いてる」「それじゃ 15日2時に来て 15分から始めて30分ぐらい」50代ぐらいのてきぱきした医者、エコーと血圧、検査用血液を採って終わった。検査前日の食糧が渡された、これは美味しくも不味くもないが1500円。初日は3160円。内視鏡が9610円。あと29日に検査結果が来る。ついでに仕様もない出費があった。当日朝から2リットルの下剤を飲みだした。「むむむ での」という時に携帯電話が鳴った。これも名前は伏せるが、「がんが治らない ますます大きくなる」か細い声で言う彼を察して返答もできない。医者に「余命は」と聞いたら、「一週間かも」と言われたという。「〇〇さんの電話番号を教えてください」という。「しらべて 折り返しかけなおす」トイレから出て番号を調べ電話をしたが不通で伝言を残した。スマホの電話に慣れないオレ、なんと切らずに3時間足らずだった。切ったとたんに彼からかかって来て番号を教えたがこの3時間足らず、小一万円ぐらいかかりそうで痛い出費だ。
- ◎検査前日は1500円の供給食糧しか食ってはいけないという。朝からあまり階下にはいかず不味いかゆを、昼も同様のものを喰って過ごした。そうだ朝早く起き、水だけ持って河原まで行った。15日当日は運動ができない、16日は仲間との山がある、たっぷり運動をして帰って、その不味いかゆを喰った。
- ◎この内視鏡検査、さっさと見てもらって、「よっしゃ 何もなし」と思っていた。2時15分に始まり3時過ぎには解放され、そのあと駅中でコタンのラーメンを喰おう、帰り道で山用おにぎりを買おう、山は軽い計画、高槻駅で8時集合、バスで上ノ口、ポンポン山から善峰寺まで歩き、バスに乗って向日駅から高槻か茨木で降りて新年会の予定だった。
- ◎検査日の2時に医院に入ったが、前の人が押しているのか2時15分スタートが20分ほど遅れて始まった。頭の横にモニターがある、おお写っている、前後左右して腸の中が映し出される、この分なら腸の中はきれいなものだ、おかしいところはなさそうだと思っていた矢先、「小さな ポリープが 二つあります 今から切っていきます」オレは心の中で、「あちゃ～」と思ったが、堀井さんなかなか手際よく看護婦さんに声をかけながら、「もちょっと回して」「すこしひいて」と二人の駆け引きもタイミングよく、ポリープの膨らみを掴み切り取って何かをプシュと発射、「次ぎ」とまた手際がいい。「ハイ終わりました ごくろうさん」「ありがとうございます」のやれやれである。「これがポリープ 29日に検査結果が出ます 聞きに来て」「今から 止血の点滴を 20分ぐらい それで終わりです」
- ◎予定よりだいぶ遅くなって、皆さんに、「ゴメン 明日 山 いけない」とラインを入れた。

三浦祐之著<口語訳：古事記>

◎アマテラスはスサノオの悪しき振る舞いに、おびえ、天の岩やに籠ってしまった。高天が原は真っ暗になり、上も下も、悪しき神々が騒ぎ満ちあふれた。困った八百万の神々は天の安（あめのやす）の河原に集まり、知恵者：オモヒカネに策を練らした。このあとの文章が、歌いのように響いていく。

◎そうしておいて あめのやすのかわの かわかみにある

あめのかたしわ（堅石：金床用の石）を とってきて

あめのかなやまの まがね（真金）をとってきて

かぬち（鍛人：鍛冶屋）のアマツマラ（立派な男根御持つ）をさがしてきて

イシコドリ（男根を硬くする女神）にいつけて かがみをつくらせて

つぎには

タマノオヤ（玉造氏の祖先神）にいつけて

やさかのまがたまの いほつ（五百個：たくさん）の みするまるの たまかざりを つくらせて

つぎには

アメノコヤネ（大和朝廷の中臣氏の祖先神）と フトダマ（忌部：いんべ：祭祀氏の祖先神）をよびだして

あまのかぐやまに すむ おおきな おじかのかたほねを そっくりぬきとって

あまのかぐに はえておった あまのハハカ（カニワザクラの事）をとってきて

そのおじかのかたほねを ハハカの ひで やいて うらなわせて

あまのかぐやまに はえている おおきなマサカキ（榊の事）を ねつきのままに こじぬいて

そのマサカキの うえのえだに やさかのまがたまの いほつのみすまるのたまを とりつけて

なかのえだには やあたのかがみを とりつけ

したにたれた えだには

しろにきて（白和幣：御幣：紙で作ったひらひらのモノ）

あおにきて（青和幣）とりたらし

そのいろいろなものを つけた ねつきの マサカキは

フトダマが ふとみてぐらとして てにささげもって

アメノコヤネが ふとのりごと（太詔戸言）を ことほぎとなえあげて

アメノタチカラヲ（力の強い神）が あまのいわやの とのわきに かくれてたって

アメノウヅメが あまのかぐやまの ヒカゲ（シダ植物）を たすきにして かたにかけ

あまのマサキを カズラにして あたまにまいて

あまのかぐやまの ささのはを たばね たくさとして てにもって

あまのいわやの とのまえに おけを ふせておいて そのうえに たって あしぶみして

おとを ひびかせながら かみがかりして ふたつのちぶさを かきだして

といた もの おを ほとんあたりまで おしたらした

すると ほのかなにわびに うかぶ ウズメのおどりを みておった やおよろずの かみがみが

よろこんで やみにおおわれた たかまがはらも どよめくばかりの おおごえに つつまれ

かみがみはみな ウズメのおどりに よいしれてしまった

◎そとの騒ぎを聞きつけた、アマテラスは、怪しいことと、戸を細目に開けた。すっかり騙されたアマテラスが、洞から出てきた。高天が原も、葦原の中つ国も、明るい光に照らされた。

- ◎「77歳 ほお～ オレが」あまり体調のこと、健康の事気にしたことが無いんだけど、先日の大腸内視鏡検査、「小さなポリープが二つありますので 今から切除します」先生と看護婦、「へいへい ほいほい」の呼吸でさっさと切り取ってくれた。ちょうど一週間が過ぎた、「風呂 自転車 酒 一週間がまんよ」と言われたが、今日軽く自転車に乗った。昨日から風呂も入っている。友人は翌日に接待宴会に出て一杯飲んで真っ青になって帰ったそうだ。当日、「晩は おかいさん ですよ」と言われたが帰ってすぐにパンを齧り おかいさんに、サケやら煮物やらを喰った。三日目ぐらいから普通食にした。60歳ぐらいのころに、友人のS先生のところで同じ手術を受けているが、一泊し、翌日の昼に飯なしで退院させられた。その手術は基本的にしばらく胃腸管を休めなければいけないようである。
- ◎3日目ぐらいから普通食になり茶やコーヒーの水分もよく飲んだ。15日には胃腸の中のものはずべて出した、何も残っていない、そこに15日から少しずつだが食いものが胃に入っていた、もちろん食欲は旺盛とまではいかないが苦も無く食った。なんやかやを三度三度食ったが、「くそお～」という雰囲気がない、雰囲気とはおかしな言葉だが、女々しく言えば、「うんこがしたい」という感覚が出てこない、そう言葉が思いついた、「便意」だ、便意がないのである。オレは、腹に入ったものは24時間もすれば糞になって出るものだと思っていたが、36時間以上経ったがまるで便意がない。15日には腹をおさえても何もない、スッキリした状態だったが、三日目四日目と時間が経ち、下っ腹のあたりが大腸を感じる、大腸の中のうんちを感じる、「くそお早く出したいな」と希望する」腹の中は、今食った美味しい物を、くにやくにゃ こにゃこにゃ そんな作業をしながら、美味しいものの味も香りもすっかり忘れた三日後四日後に、ケツの穴から出るのである。昨日食ったものの美味さや香りは思い出されるが、三四日前に喰った美味しい物、これは忘れて過去の話だ。
- ◎60代前半まではオレは酒のみであった、毎日ちびりとやっていた、「酒なくて 何が悲しく・・・」なんてえらそうなことをほざいていた。そのころは朝飯を食うとすぐに軟便が苦も無く出た、これが普通だ、糞は出るものなのだ、とほざいていた。少年時代や青年時代、大酒を飲まなかった時代も、腹が冷える、腹が渋る、こういう状態で軟便時代は60歳過ぎまで続いた。ところが毎日河原に行っても、「息が切れる 走りたくない しんどい なぜ なんなんだろう」と怪しみだし、「これは毎日の飲酒が原因」と自覚して、一日やめる 二日やめる、そんなこんなを一年二年続け、70歳を超えたころから酒を飲まない岡村が現れた。そのころから便秘ということを経験しだした、「二日でない 三日でない」「こらあアカン くそお～」と便秘の薬をもらって飲む。便意が現れ、トイレに籠るが、出口付近のそやつが大きくて硬い、そんなデカイ物はオレのケツの穴が耐えられない、のたうち回るといってほど大袈裟ではないが、のた、を抜いたぐらいは苦勞する。何日かに一度はそんな苦勞をする。山を徘徊している時も、「おととつと キジを うちたい」ともよおすことがあるが、ケツを丸出しにしてシバラクふんばり、やっと1キロぐらいのブーツを置いてくる。山のおきてに従って、靴の底で穴を掘りその1キロを収納して土をかぶせ手を合わせる。この手を合わせるは脚色である。
- ◎そうそう風邪をひいている。15日の前日、某所にお邪魔して30分ほど話し、そのあと自然の中を散歩していたが、「あれれ なんだかフウジャの気分 なんだろう」と思っていた。帰って葛根湯など飲んで明日の内視鏡をすませないことには、風邪などひいて中止になれば大損だ、なんて身勝手なことを思っていた。内視鏡が終わり一日二日経った頃から、咳が出る、痰がでる、けだるい、風邪の邪悪な神にオレの身体が乗っ取られたようである。この時期、医者にも行けない、風邪薬を飲むと眠いだるい、わがままをいいながら何日かが過ぎた。我が家の寒さが災いしているのだろうか、邪悪な神様なかなか抜けてくれえない。
- ◎もう一つ困っていることがある、頻尿の事である。よく、「ちょいもれ」と聞くと、それではない、すぐに小便に行きたい、しかもたくさん出る。水分を飲むとすぐに小便がしたくなる。夏が終わり秋風が吹き出すとこの症状が現れ出しで10年ぐらいかな。みっともないのは、車で出発してだらだら渋滞道を走りながら頻尿がやって来た時は、避難場所がないだけにおおいに苦勞する。先日来、朝食時のミルクティーの量を減らしている。それまでは大きなマグカップ2杯は飲んでしたが、半分にしたら、ちょい改善した。やだねえ頻尿。

- ◎「明神ブルーを 見に行こう」何日か前から計画していた。まさか今日のこの日、「今季最大の 寒波が 押し 寄せる」と天気予報士が騒いでいる。去年の冬も東吉野方面に出かけたその時は、たかすみ温泉に左折するだいぶ手前から道路に雪が積もり、「こらあ アカン チェーンを 着けるぞ」その車は四輪駆動だったので右側だけ着け、たかすみ温泉駐車場に到着した。今日は道路にうっすら雪があるだけ、「こらあ いけるよ いけいけ」と着いたが9時前で隣の500円Pに駐車した。
- ◎6:30 阪急茨木駅献血前で相澤、馬場、林を乗せ、オレと4人で、摂津北IC→松原→南阪奈→大宇陀と進んだ。2.3日前から、「天気は 大丈夫かな」「大雪で登れないのでは」とLINEが賑わった。「予定通り行きます」車に乗った三人さんに、「こんな天気 なので とにかく 東吉野まで 行きます」「御杖は ちと方向が 違うので 今回は パス」「東吉野あたりで 積雪があれば 明神までの山道が 雪や凍結で 通りにくいので 高見山に 変更します」東吉野に近づくあたりで、「今日は 高見」と決定した。
- ◎9:10 着替えをすまして出発した。車に乗っている間は降ってなかったが、歩きだしたらフラリフラリ雪が降ってきた。1時間半ぐらいいは樹林帯の中、もう10年もすれば出荷できるかという杉の森林帯、10センチぐらいの雪が積もっている。風の音が空の上でびゅうびゅう聞こえる、分厚い毛糸の帽子、山用手袋、防寒具の下が汗ばんでくる、なかなか、穏やかな雪山、青空の下まっ白な雪、樹々の霧氷、そういう憧れの景色には恵まれない。今日もおそらく吹雪ほどではないにしろ、薄暗い空、きつい風、横殴りの雪という登山かな。
- ◎半分ぐらい登ったあたりから尾根道登りになる。まっ白な雪の世界、真っ青な空があればまさに絶景だけれど、本日は白い雪、樹々も白く雪に覆われ、空は白く曇り空、モノトーンの世界である。時折、おっととと体が揺さぶられるような風の瞬間がある、「風に 吹かれりゃ よおお わかごけさん だよおお」ジジイが青年時代に流行った歌だが、この当時はまだオレは山に縁がなかった。JR新宿の通路にカーキ色のキスリングを並べて長い列ができていた、オレも彼らも二十歳代、夜中の12時頃の列車に乗り松本方面に向かっていく列車、早朝の4時とか5時に着き、そこから登山口までバズか何かで、それから歩いたんだろうね。しごき全盛の時代、大学山岳部全盛の時代、並んでいたのは会社員になっても山に登りたい若者たちが多かったと思う。
- ◎12:40 山頂避難小屋に到着。寒いさむい、さすがに今日は人が少ない、震えながらザックからカップヌードルを出しポットの湯を入れた。おにぎりを出し喰ったが、ぼそぼそして柔らかい食感がない、ホシイイを喰っているような感じのコンビニ握り飯であった。カレー味のヌードルもすぐに冷え始めそそくさと流し込んだ。これが野外ならもっと寒い、まだ屋根と壁のある小屋の中、贅沢は言えないね、感謝だね。小屋の中に温度計があり、マイナス10度である、飯を終わって小屋の外で写真を撮ろうと薄い手袋だけで数分動いたが、手の指の感覚がなくなるぐらいに痛かった。慌て小屋に戻り、荷をザックに詰め山用手袋をはめ、下山した。
- ◎アイゼンは6本爪、30歳代に買った鉄製を尾根道あたりで着けた。ピッケルも尾根道あたりから杖がわりに持った。最近の山装備品には詳しくないが、着脱簡単なチェーンアイゼンは便利そうである。こんな山でピッケルを持っている人はいないが、オレは若いころから杖がわりに、ストックではなくピッケルを重用している。
- ◎1000メートルを超えたあたりの雪は樹々の幹に貼り付き霧氷のさまだが、植林地帯は湿った雪質でぼってりササの葉っぱの上に載っている。冬山の寒い季節はてっぺんでゆっくり弁当を食う余裕もなく、若いころから立ったままで何かを齧り、「さあ 帰ろう」「さっさと 下ろう」と言うのが多かった。テント泊をしようという時は、まず雪の上にテントを張って、ポリ袋に水用の雪をかき集め、テントに潜り込みコンロの火を点ける、これが意外と暖かい、すぐに暖気が充満してほっとしたものだった。
- ◎1時間ほど下ったところで、ポットの湯でインスタントのコーヒーを作りお菓子をいただいた。車にたどり着いたのは4時頃。車の上にも雪が積もっていた。さっさと帰ろうとそのまま車に乗った。水は1リッターを山行中に飲み、ポットの湯も飲んだが、車の中で500CCの水をグビリ飲んでしまった。こんな寒中の山だが、汗が出るものなのか、水はよく飲んだ。昔のように腹が減らなくなって、非常食のいくつかを持って帰っている。家に着いたのは7時前、風呂に入り、ジン飲みながら晩飯を食った。

◎先日山の中で、「寒い もうちょっと・もうちょっとで てっぺんだ」とエンヤコラしている時、「わはは・・・」若者の叫び声が聞こえる。張りのある声、耳障りな大きさ、「こらあ 騒ぐな」と独り言を飲み込んだ。考えてみりゃあ、今から10年前の60歳代、20年前の50歳代、30年前の40歳代、オレも張りのある大きな声をだしていた、叫んでいたはずだ。

「なんじゃ こらあ」 まわりが弱そうなやつだと確認してから、怒鳴りつけていた・・・。

「そらあ～ おかしいじゃないの」これまた、相手が弱そうなやつだと確認してから、抗議していた・・・。

「がはっは けっさくじゃあ」大笑いして・・・笑うのは自由だ、何ごともおおいに笑え。

そんなこんな所かまわず、相手かまわず、声を張り上げ話していたんじゃないだろうか。不平を言う、意見をいう、あっちこっちを批判する、誰かれなくそしる、そのくせ己のことは、いたくやさしく肯定する、そんなオレが見えてくる。いやあ全く情けないねえ・・・。

◎だからと言って仏のようにまわりを自愛の目で見つめ、何もかも許し、うなずき、目を細めるジジイではないかん、そらあジジイすぎる、「死に体じゃぞ」である。体力、気力がなくなり、覇気が衰え、「弱気になってはいかんぞよ」

これからは大きな声を出して歌ってみよう、ドレミの歌を。

◎ラジオで西行の句を呼んでいるアナウンサーがいたのでいくつか。

とりわきて 心も凍みて 冴えぞわたる 衣川見に 来たる今日しも <30歳のころ陸奥へ旅立つ>

浪の音を 心にかけて 明かすかな 苦(とま)洩る月の 影を友にて <西国：安芸に向かう旅で>

よしや君 昔の玉の 床とても かからむ後は 何にかはせむ <讃岐で崩御した崇徳上皇の墓に>

死出の山 こゆるたえまは あらじかし 亡くなる人の 数つづきつつ <源平合戦で平家が都落ち>

うなゐ(WI)子が すさみに鳴らす 麦笛の 声におどろく 夏のひるぶし <昼寝する70歳の西行：嵯峨>

ねがはくは 花の下にて 春死なむ そのきさらぎの 望月のころ <2月の満月：南葛城で入滅>

◎いやあまだまだ寒い。アトリエの温度計は10度以下である。低体温症は室内でおこるといふ。もう4.5日になるが先日の雪山、弁当を食い終わり、「ちょっと 写真 裏の雪を」薄い手袋一丁でカメラを持って外に出た。指が冷たい、痛いぐらいだ、と思いながらも慌てて小屋に帰り、カメラをしまい、防寒具のフードを被り、雪用手袋をした。なんだか手が手でないような感覚、その時には、「指がいたい 今までにない痛さ」とわかっていたがそのままとことこ下山した。何分か経って指のしびれも収まってきたが、いまだに風呂に入ると指がいたい、細胞のとある部分が相当やられたのだろうが、凍傷という大げさな話ではない。凍傷で足や手の指を切断した山男の話はよく聞かすが、あの痛さがもっと続き、感覚がなくなり、壊死していくのだろう。山が好きだとはいえ、怖がりが高所恐怖症のオレには縁のない話だが、今の季節の高い山は寒くて冷たい。凍みる、という言葉だね。

◎河原を走りながら、「また 水彩を 描こう」「昔のように 水彩画を」と考えた。

- ◎相澤・番匠・難波・岡村の4名、上ノ口までバスに乗り神峰山寺に向かって歩いていきます。ポンポン山から善峯寺まで歩く計画、実はこの計画、オレの大腸内視鏡の翌日に来る予定だったが、ポリープが見つかり削除手術をしたので中止してもらった、そのリベンジである。このルートは地図がはっきりしておらず、今回もどこかを曲がりそこね、見たこともない林道に出た。帰って地図を確認すると神峰山寺の近所を帰ってきたようだ。
- ◎新名神高速道路の横から登り始め最後の鉄塔で一本取った。明日から前線が活躍するらしく天気と思わしくないらしいが、今日の空は白い絵の具を水の中に垂らしたような青空、ちとぼけているが先日来よりおだやかである。
- ◎11時頃に参道との合流地点に着いた。今日はコーヒーセットを持ってきているので、そのまま歩いて、本山寺のトイレから階段を上ったところの蛇口から水をいただき、コーヒーを味わおうと企んでいる。Bさんは1月のハーフマラソン完走、2月にも青梅マラソンに出場するという健脚、とつとことつとこ進んで行く、AさんとNさんは、「弱い アカン」と悲観的な言葉を連発しながら、力強く登っていく。オレは、コンロ・ボンベ等に入ったザックを担ぎ、エッコラショと登っていく。
- ◎12:30 てっぺんに到着。5.6人の人がパラパラ、今日は少ないようだ。「さ 飯にしよう」と弁当を広げた。今日は寒くないだろうといつものちゃんとした弁当を作ってきた。玄米ごはんは梅干しと胡麻パラパラ、野菜を炒め卵でとじた。タンパク質はないねえ、いやいや卵があるじゃない。ゆっくり食べ終わり、バーナーに火をつけ湯を沸かした。先日アトリエで、山用の小さいやかんを火にかけていたが、水が無くなりやかんの底が溶けてしまった。澤山さんが、「火にかけて ほっとくと 底が溶けるよ」と言っていたが、こうも簡単に崩壊するものだとびっくり。アルミの薄い底が紙のようになって崩壊した。なので今日はちと大きめの軽いやかんを持ってきた。先ほど本山寺の水道から水を1.5リッターいただき担ぎ上げた。
- ◎てっぺんの温度計を見忘れたが、2度か3度ぐらいじゃないのかな、ほんの所々に雪の破片が散らばっている、空模様も曇りがちになり寒くなってきた。1時間もゆっくりしたのは初めてだが、皆さんと話すのも楽しいものである。「飛ばし過ぎずに ゆっくり 帰りましょう」
- ◎「モミの樹だ」「ヒイラギだ このギザギザがいい」ポンポン山から釈迦岳に抜けるあたり、せいぜい600メートルぐらいの低い山だが、両サイドが落ち込んだ尾根道、「ここはいいなあ」いつもそう思う。獣が楽しく遊び行き交う広場もある、てんでばらばら樹々が生え、倒木もたくさんある。モミやヒイラギが土の上から10センチぐらい立ち上がっている。「種からの 10センチ かな」10センチが1メートルになり、10メートルになり森の主になる。きつい風が吹きひっくり返る、根っこを上を晒して枯れていく、キノコが生え菌がはびこり朽ちていく。この10センチたちも、森のサイクルの真っ最中にいるんだ。
- ◎途中のベンチに腰掛け、「また コーヒー しよう」うまい具合に8袋持ってきた、4人で2回コーヒーが楽しめる。先ほどてっぺんで話した方は伏見から来られたそうで、「年にいっぺん ポンポン山に お参りしたいまだ正月のうちだから 今日」尺台から入りました」ポンポン山は、神峰山寺が登山口とばかりと思っていたが、いろんなところから入れる山なんだと再発見。
- ◎「さあ あまりゆっくりしていると日が暮れる」歩き出したが、どこかで道を間違えた模様、「こらあ 間違えた かな」「ま どこかに降りられそう」林道が現れ舗装道を進むと車が通っている。左が柳谷観音、右が高槻市街となっている、地名は川久保という。オレより10歳上のぼっちゃんが腰掛けていた。「バス停がある？」「あるよ そっちが早い 40分歩きゃ 停留所がある 成合」「ありがとう」「またきてなあ」4人でてっぺんを歩いた、後ろから高級車が追い抜いていく。うしろのゴルフ場があるようだ。スマホで調べると1時間ぐらいかるといふ。「あれれ バス いるよ」「いやあ 高槻バス 高槻駅まで行く」もうエンジンをかけて出発間際の様子、飛び乗った、「バスは スイスイ走る こらあ 歩いたら大変だ ありがたい」調べるとバス停は「川久保」という名、これに乗り遅れると、2時間後になっている。阪急茨木駅に着きちょっと新年会、お店に入って鱈腹食って、たくさん飲んで、ご機嫌さんで帰った。